



製品安全性データシート

会社名：コダック株式会社
担当部門：産業・エアリアル機材事業部
所在地：東京都中央区新川 2-27-1 東京住友ツインビル東館(〒104-0033)
電話番号：03(5540)2255 FAX 03(5540)2256

MSDS No. Z17000000828/Version1.1

承認日：2004年3月12日

作成日：2005年1月20日

1 化学物質及び会社情報

製品名：コダック インダストレックス シングルパート デベロッパー スターター

CAT No.835-1413

2 危険・有害性の要約

推奨される方法で取り扱った場合、有害性は低い。

HMIS 危険有害性等級：

健康障害 - 0、火災 - 0、反応性 (安定性) - 0

NFPA 危険有害性等級：

健康障害 - 0、火災 - 0、反応性 (安定性) - 0

注：

HMIS 及び NFPA の危険有害性指標については、企業間で異なるデータ検討と解釈を行っている場合がある。これらの指標は、危険有害性の可能性の程度を迅速かつ概括的に確認することだけを目的としている。HMIS の健康障害区分に付したアスタリスク (*) は、慢性的危険有害性、又は標的器官に対する危険有害性を有する可能性を示している。安全かつ適切な取り扱いのために、本 MSDS 記載の情報はすべて考慮しなければならない。

3 物質の特定

重量%	成分	(CAS 番号)
85-90	水	(7732-18-5)
10-15	臭化ナトリウム	(7647-15-6)
< 1	ポリエチレングリコール	(25322-68-3)
< 0.1	陽イオン界面活性剤	(121-54-0)

4 | 応急措置

吸入した場合： 症状が現れたら、空気の新鮮なところへ移動する。対症療法を行う。症状が続く場合、医師の診察を受ける。

眼に入った場合： 製品が眼に入ったら、直ちに水で洗い流す。症状が現れたら医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合： 石けんと水で洗い流す。症状が現れたら医師の診察を受ける。

誤飲した場合： コップ 1~2 杯の水を飲む。医師の診察を受ける。意識がない場合、口からものを与えてはならない。

5 | 火災時の措置

消火剤： 地域の状況及び周囲の環境に適合する消火剤を使用する。

火災時の特別な手順： 自給式呼吸器及び保護衣を着用する。火災や過熱のために有害な分解物が生成する可能性がある。

有害な燃焼物質： なし（有害な分解物の項も参照のこと）

異常な火災及び爆発の危険： なし

6 | 漏出時の措置

回収・除害方法： 大量の水で下水に流し込む。または、バーミキュライト等の不活性物質に漏出物を吸着させた後、化学物質廃棄用の容器に入れる。床面を十分に清浄にして、残留する汚染物質を除去する。

7 | 取扱い及び保管上の注意

個人の注意事項： 眼に入らないようにする。また、皮膚への長期的又は反復的な接触を避ける。十分な換気のもとで使用する。取扱い後は十分に手等を洗浄する。

火災及び爆発の防止： 技術的に特別な防止法は必要ない。

保管： 密閉容器に保管する。不適合物質から離して保管する（不適合性の項参照）。

8 暴露防止及び保護措置

- 許容濃度： 確立されていない。
- 換気： 換気を十分に行う（通常 1 時間当たり 10 回換気）。換気の頻度は状況に応じて変更する。
- 呼吸器系の保護： 必要ない。
- 眼の保護： 眼に入る危険を最小限にすることは、優良産業衛生規範のひとつである。サイドシールドのある安全眼鏡（またはゴーグル）を着用する。
- 皮膚及び体の保護： 皮膚に接触する危険を最小限にすることは、優良産業衛生規範のひとつである。皮膚に長期的又は反復的に接触する可能性がある操作に際しては、不浸透性の手袋を着用する。
- 推奨除染設備： シャワー、洗眼器、洗浄設備。

9 物理的性質及び化学的性質

外観：	液体
色：	無色
臭気：	無臭
比重：	1.106
蒸気圧（20.0℃）：	24 mbar（18.0 mmHg）
相対蒸気密度：	0.6
揮発留分（重量）：	85-90%
沸点：	100.0℃
水溶性：	易溶
pH：	6.6
引火点：	なし（不燃性液体）

10 危険性情報（安定性・反応性）

- 安定性： 安定
- 不適合性： 本製品が通常接触する可能性のある一般的な物質及び不純物との不適合性は無い。
- 有害分解物： 臭化水素
- 有害重合物： 有害重合物は生成しない。

11 有害性情報（暴露の影響）

吸入： 推奨される方法で取り扱った場合、有害性は低いと予想される。

眼： 有害性は特に知られていない。一過性の炎症を起こすことがある。

皮膚： 推奨される方法で取り扱った場合、有害性は低い。

誤飲： 誤飲の有害性は低いと予想される。

12 環境影響情報

毒性の可能性：

魚LC₅₀： >100 mg/L

ミジンコEC₅₀： >100 mg/L

藻類IC₅₀： >100 mg/L

廃棄物処理用微生物EC₅₀： >100 mg/L

易分解性有機物： 容易には生分解されない。

生物濃縮可能性： log Pow < 1

COD（概算）： 14 g/L

BOD（概算）： 0 g/L

13 廃棄時の注意

排出、処理、廃棄に際して、国、都道府県、市町村の法令による規制を受ける場合がある。大量の水とともに下水に流す前に、国、都道府県、又は市町村の規制当局に相談する。空の容器には製品が残っているため、容器を空にした後もラベルの警告に従う。

14 輸送上の注意

いかなる方法による輸送も規制を受けない。

15 適用法令

化学物質管理促進法（PRTR法）：なし

毒物劇物取締法：なし

労働安全衛生法：なし

消防法：なし

16 | その他

推奨される方法で取り扱った場合、有害性は低い。

眼に入らないようにする。また、皮膚への長期又は反復的な接触を避ける。

十分な換気のもとで使用する。

取り扱い後は十分に手等を洗淨する。

応急措置：

対症療法を行う。症状が続く場合、医師の診察を受ける。

小児の手の届かないところに保管する。

R-1, S-1, F-0, C-0